

# 耳公民館だより



第83号 令和8年7月



(マツバギク：興道寺)

他県に比べると少雨に感じた梅雨が明け、猛暑の夏がやってきました。暑さを表す気象用語「酷暑日」も登場し、さて美浜町の今夏はどうなるでしょう。状況に応じて対策が必要ですが、我が家のエアコンが故障しないよう祈ります。左の写真の「マツバギク」は南アフリカ原産で、高温や乾燥に強い植物です。私たちも負けずに夏を乗り切りましょう。

## ヨガ教室 7/4 (土)

(健康福祉課共催)

幼児から高齢の方まで15名が参加して開催。「けっこう、こたえたわ」と言いながらもさわやかな笑顔で帰られました。



## 立ち寄り型講座

### 「ふらっと」ニュース

#### 紙コップ風鈴

放課後子ども教室で7名が体験しました

紙コップを切ったり、丸めたり、細い穴に糸を通したり、結んだりとしむずかしかったかもしれませんが、慣れると次々といくつも完成させていました。



## 夏の夜空に思いをはせる 星空観察会



- ① 7月21日(火) 午後7時30分～
- ② 8月6日(木) 早朝4時～
- ③ 8月6日(木) 午後7時30分～
- ④ 8月20日(木) 午後7時30分～

新庄グラウンド

中央小グラウンド

☆雨天や曇りの場合は中止します。

予備日はありません。

ご参加ご希望の方は、耳公民館までご連絡ください。その際、中止の場合に連絡がとれる電話番号をお知らせください。

ご希望の日にご参加ください

## 介護予防のための 健康教室



|       |                                                                                                                     |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ● 内 容 | お口の健康について                                                                                                           |
| ● 日 時 | 7月28日（火）13:30～14:30                                                                                                 |
| ● 場 所 | 美浜町耳公民館                                                                                                             |
| ● 対象者 | 65歳以上 定員20名ほど（無料）                                                                                                   |
| ● 講 師 | 福井県歯科衛生士会<br>歯科衛生士 村井 綾 氏                                                                                           |
| ● 持ち物 | 飲み物<br>あいあいポイント手帳またはスマホ<br><small>※美浜町あいあいポイント事業・浜さんカード対象<br/>※美浜町あいあいアプリでも申込みできます。<br/>※耳公民館と健康福祉課の共催事業です。</small> |

歯や口の健康を保つためのセルフケア方法や口腔体操などの  
オーラルフレイル予防について歯科衛生士からお話します。

【お問合せ】 美浜町耳公民館 0770-32-0027  
美浜町健康福祉課 0770-32-6704

## 中央小5年生 田植え学習写真展

5年生が田植えで悪戦苦闘。

伴和男さん（佐柿）による

生き生きと  
した写真の  
数々をご覧ください。



## 中央小写生画展

町内各所へ出かけて描いた写生画  
の作品30点を展示しています。

なかなかの  
力作ぞろい  
です。



## 館長のつぶやき

田んぼ

中央小学校五年生の田植え学習、長谷川さんがていねいに作業をしてくださった田んぼは美しさを感じて、不謹慎ながら「水ようかん」を連想させるような仕上がりました。

日本はもとも米作りには不利な土壌や気候であったところ田んぼに水をためるという「大発明」があり、米を安定的に栽培できるようになったとのこと。

田んぼの中は主に二つの層に分かれていて、深いところの「すきどこ層」という水を適度に漏らさない固さの土が人や機械を支え、表面の「作土層」が養分を均一に保って稲の育ち具合にばらつきをなくし稲刈りを可能にするという仕組みです。

しかし肝心の水がなければ何もならないわけで、いにしえの時代から水を守ることが必須条件だったわけです。伝統的な米作りを続けるインドネシアのバリ島では水をひく仕組みはもちろんのこと、「水には神が宿る」という信仰があり、田んぼの神は女性、水の神は男性で、結婚して稲の神が生まれたとされています。

神聖な成り立ちの田んぼですが、田植え未体験の子どもたちですから、きめ細かい土に足を取られ転倒し「きやあきやあ」と声を上げて「どろんこ祭り」の様相です。決められた場所を何とか植え終わって帰りましたが、その後の手直しもあり色々とお世話になって秋の収穫を迎えます。

耳公民館もまだまだ不慣れな田植えのような仕事ですが、利用していただく皆さんのおかげで、千鳥足ながらも一步一步「おおこけ」はしないでここまで来ています。